



# 庄内西小学校だより

令和6年(2024年)3月4日発行

校長 西口肇子



カラー版は『<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/shonai-n/>』をご覧ください。



## 自分らしく生きる~LGBTQについて知る~



最近では、カミングアウトして活動する芸能人も増え、LGBTQという言葉を目にする機会が多くなりました。セクシャルマイノリティー(性的少数者)と呼ばれたりしていますが、実は「AB型の人や左ききの人ぐらいの割合でいる。」と言われていて、クラスに何人かいても不思議ではありません。そんな子どもたちが、自らの性的特性に気づいた時に、悩んだり苦しんだりしないよう、また、周りの子どもたちが、正しい理解のもと、適切な関わりが持てるよう、4年生と6年生が、当事者の方にお話を聞きました。

- L(レズビアン)⇒⇒⇒⇒⇒女性を好きになる女性
- G(ゲイ)⇒⇒⇒⇒⇒男性を好きになる男性
- B(バイセクシュアル)⇒⇒女性も男性も好きになることがある人
- T(トランスジェンダー)⇒うまれた時の体の性別と違う性別で生きる(生きたい)人
- Q(クエスチョニング)⇒⇒自分の性別がわからない、決められない人

4年生は、井上鈴佳さん(もと保健室の先生)⇨のお話を聞きました。鈴佳さん自身はレズビアンですが、「多様な性」についてわかりやすく説明してくださいました。自らのパートナーやLGBTの友人の紹介もあり子どもたちも、現実的で身近なお話として受け止めることができましたようです。



⇨6年生は、トランスジェンダーの大森誉さんのお話を聞きました。子どもの頃「女の子であること」に違和感を持ちはじめ、悩みながらも「自分らしさ」を探し続けた誉さん。「自分を理解してくれる仲間」との出会いの中で、男として生きる道を選ばれています。

レズビアンやゲイの結婚が、当たり前認められている国もあれば、見つければ死刑にされるという国もあります。日本ではまだ、同性婚は認められていませんが、「パートナーシップ制度」を導入した自治体はたくさんあります。(大阪府も導入済みです。)

「LGBTQ」を理解し支えようとするALLY(アライ=味方)の存在も確実に増えていて教育現場においても、現在では、ジェンダーレスの制服や水着を選択する学校は多くなっています。

### 井上鈴佳さんのお話を聞いて(4年生)

- ♡女の人が女の人を好きになったり、男の人が男の人を好きになっていいとか初めて知りました。性別が逆転している夫婦もいると初めて知りました。教えてくれてありがとうございました。性別逆転夫婦もステキだと思います。
- ♡「性別は、人の数だけある」と言っていたのが、とてもびっくりしました。「人は自分だけの性別を持っている」というのが、素晴らしいと思いました。昔の教科書には「男性は女性を好きになる。女性は男性を好きになる。」と書かれていると知っておどろきました。私は、だれかにかかわられても自分の気持ちを大切にしたいです。性別に関係なくだれもが生きやすい世界になってほしいです。
- ♡人には、女と男があるけど、その中にはいろんな心を持つ人がいる。男の子だからって「スカートをはいちゃだめ」とか、女の子だからって「髪を短くしちゃだめ」とか「子どもだからだまっておけ」とか、自分が「やりたい」「こう生きたい」という気持ちがかかわらないなんておかしい!
- ♡LGBTのどれかに入る人は、見た目ではわからないと思う。自分の周りにもそういう人がいるかもしれないので、優しい心を持って、「誰に言いたいか」「誰に言いたくないか」をしっかり聞いて、からかわずにいたいと思います。
- ♡私は、人権学習ができてよかったなと思います。私もALLY(アライ)としてLGBTの人の少しでも役に立てるようになりたいです。



### 大森 誉さんのお話を聞いて(6年生)

- ♡昔と今ではみんなの考え方が違うなと思う。昔は「これは女子、これは男子。」ていうのがはっきりあったけれど、今は、お化粧をする「男子」もカッコいい「女子」もいる。時代は変わったなあと思う。
- ♡勇気を出して、本当の自分のことを、素直にみんなに話してみると、すっきりするんだな。ということがわかった。性別のことで困ったり悩んだりしている人もいると思うから、自分は、決めつけたりするのはやめようと思った。
- ♡もし、自分だったらと置きかえて考えた時、トイレとか温泉とか大変になるなあと感じた。LGBTQの人でも生きやすい世の中になったらいいなと思う。
- ♡大森さんが自分らしく生きられなかった時は、つらかったと思う。人は誰でも自分らしくいきるのが一番いい。安心して自分らしく生きるためには、理解してくれる仲間が必要。私も、そういう人でありたい。

鈴佳さんや誉さんには「男や女の性別にとらわれず『自分らしく』生きること」や、「多様性を認めること」の大切さを教えていただきました。自分とは違うからと、避けたり攻撃したりするのではなく、その違いを認め合い支え合える子どもたちでいてほしいと思います。